

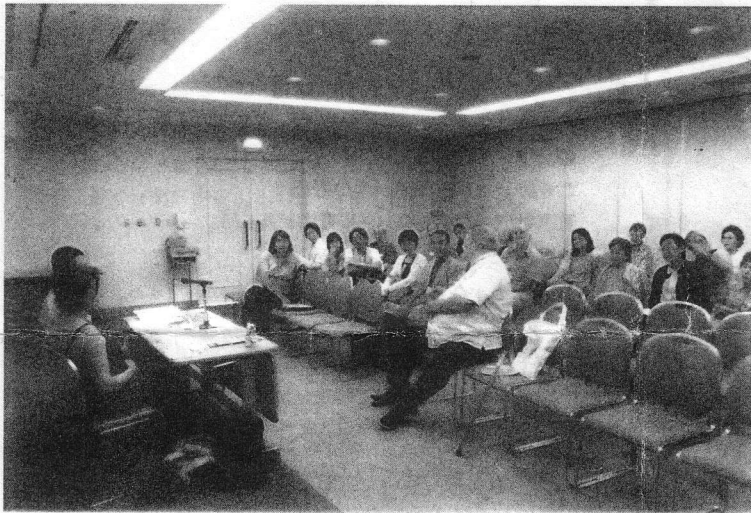
CAT TIMES

キヤット タイムス

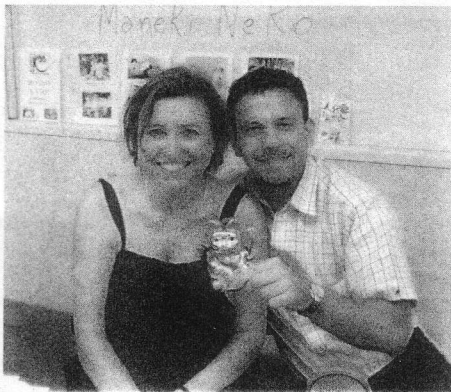
素敵な情報を
毎月毎月
あなたのもとへ
お届けします。

★今月の★
PICK
UP

エスペラント語で猫談義！
さまざまな国の猫好きたちが
互いに交流を深めました



猫愛好者の会の様子。



司会のアナさんとクレイさんと招き猫。

人工の国際語として、1887年に創案されたエスペラント語。その普及を目的とした第92回世界エスペラント大会が、8月にパシフィコ横浜で開催されました。エスペラント語で猫について語り合う、12回目となる「猫

猫で国際交流『猫愛好者の会』

●第92回 世界エスペラント大会 IN 横浜

愛好者の会」の分科会にお邪魔してきました。

日本やブラジル、イギリスなどさまざまな国から参加者が集まったなか、まずはアニマルセラピーの話題に。猫よりも犬が活躍しているのが現状ですが、最近では長毛種、とくにペルシヤにその適性があるといわれ始めているようです。

外国人のあいだでも、よく知られているのが招き猫。手の平を下にして招いているのが日本版のスタイルですが、アメリカではこのジェスチャーは逆の意



会の案内資料。

味となるため、当地の招き猫は手の平を上に向けているなど、国による違いが紹介されました。また、アメリカの病院で終末期の患者の死を予知するといわれる猫の「オスカー」君の話にも。病気になるたとき、いつも足もとで寝ている愛猫が、頭のほうに寄り添ってきたが、数日後、病気が治ると、「もういいでしょー」と足もとに戻っていったという参加者と猫との不思議な体験談など、地域や文化、年齢の枠を超え、猫とエスペラント語を介したコミュニケーションに花が咲いていました。